



「聞く」ことの大切さ

校長 川西 真理

予測困難と言われる時代に島中小学校の子どもたちにどんな力をつけたらいいのか？ どうしたら学力が伸びるのか？ 何をすればその力をつけられるのか？ 職員室では頻繁にそんな会話が交わされています。先日の校内研修でも、活発に意見が交換され、授業を深め、学力をさらに伸ばすためには「聞く力」が重要である、という結論に達しました。

そのことに関連して、5月のなかよし朝会で次のような話をしました。

今日は「聞く」ということについて話します。あとで、ちゃんと聞けていたか質問をするので、しっかり聞いてください。

この間、先生達の話し合いで「聞く」力を島中小のみんなにつけたいね、という話をしました。聞くことが大切なのはなぜでしょう。色々ありますが、例を4つあげます。

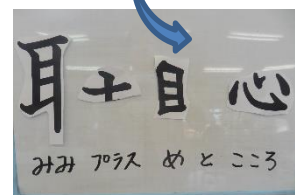
- 1 授業はまず先生の質問を聞くことで、**今日は何を勉強するか**がわかります。
- 2 授業は先生や友達の説明を聞くことで、**新しいことが学べ**ます。
- 3 友達の話や言い分を聞くことで、**けんか**がなくなります。
- 4 先生やお家の人の話を聞くことで、**社会や集団のルール**がわかります。

聞くというのは簡単そうですが、難しいところがあります。

それは、聞こうとする気持ちがないと聞けないからです。

そこで、「聞く」よりもう一步レベルが上の「聴く」ことがみんなにできるようになってほしいと思います。「聴く」という字を見てください。「耳」「+ (プラス)」「目」と「心」です。

この「聴く」を意識してこれから色々な話を聞いてほしいと思います。



なかよし朝会の様子

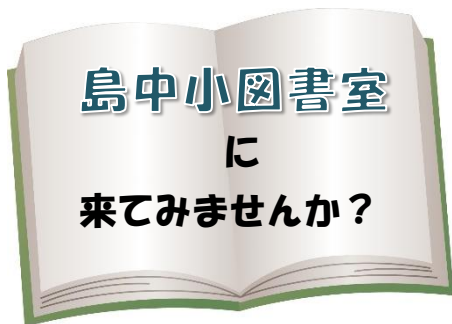


話のあと、話の内容についての質問をしたところ、全ての質問に正しい回答をしてくれました。耳だけでなく目と心で聴いてくれていた事がわかりました。その後の保健の話も同様にきちんと聴いてくれました。

さて、話を聞ける子を育てるには、やはり大人の関わり方が大事であることが言われています。まず一番は「大人自身が子どもの話をちゃんと聞くこと」です。子どもの言葉は

つたなく、表現も不十分です。また、忙しいときに限って、何やかんやと言ってきます。けれど

も、そんな時にきちんと向き合ってくれる大人に子どもは信頼を寄せてくれます。次に、「絵本の読みきかせ」にも効果があることが言われています。学校でも定期的に読みきかせの会を計



島中小の図書室は、昨年度、地域のボランティアさんの尽力で、すべての蔵書がデータ化され、児童はそれぞれ個人のIDにより、図書の貸し借りがとても手軽にできるようになっています。そこで、地域の皆様にも、ぜひ、島中小の図書室をご活用いただけたらと思います。蔵書は小学生向けのもが多いですが、絵本などは大人が読んでも読み応えのある本がたくさんあります。また、図書室に来られたついでに子どもたちと触れあっていただくのも大歓迎です。利用を希望される方には、IDカードを発行します。ぜひ、島中小学校の図書室に立ち寄ってみてください。

開放日 毎週木曜日 9時～13時
*これ以外の日時の場合は電話でご相談ください。
貸出 1回につき、2冊まで。期間は2週間



現代的な課題の本もあるよ！



「心」に関する本もあるよ！



児童に人気の「ひみつシリーズ」



大人が読んでもおもしろい絵本

5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置づけが2類から5類に変わったことで、学校の教育活動も制限がほぼなくなりコロナ前にもどりつつあります。島中小学校では、これまでの「地域の学校」として多くの地域の方々に支えられてきました。今後も、地域との連携を密にし、子どもたちの「生きる力」を育んでいきたいと考えます。学校へのご協力や情報提供をぜひよろしくお願いいたします。本年度、特にお願いしたいことは、次のとおりです。

●「海」に関する体験活動等の情報提供

大島の海をテーマに学習をします。海での体験（漁業体験）や生物に関すること漁業体験などがあればよろしくお願いいたします。

●グラウンド等の環境整備

児童・教職員の数も減り、草刈りやグラウンド整備がなかなか追いつかない状況です。お手伝いいただける方がいらっしゃいましたら学校にご連絡をください。

（連絡先）島中小学校 73-0508 担当：教頭

